

●地区別計画推進活動報告（社会福祉大会第2部）

平成27年2月20日（金）、第33回緑区社会福祉大会の第2部において、地区別計画推進活動報告として、事例発表「身近な地域でつながり・ささえあいをつくるために」を開催しました。

この事例発表は、平成23年度から11地区で展開されている「地区別計画」の具体的な推進状況を広く地域の方々にお伝えし、今後の各地区でのさらなる展開のきっかけとしてもらうことを目的に、毎年開催しています。

(1) 第1部 式典

今大会より緑区民文化センター（みどりアートパーク）に会場を移し、当日は天候にも恵まれ、和やかな雰囲気の中、日頃から地域で福祉・保健などの活動で活躍されている方々を中心に、312名の皆さまにご参加いただきました。

第1部の式典では、緑区において永年にわたり社会福祉活動に携わってこられた多くの団体や個人の方の功績に感謝し、地域福祉の一層の充実を図ることを目的に式典（表彰）が行われました。



＜式典（表彰）の様子＞

(2) 第2部 事例発表

第2部では、三保・長津田地区の順に、2地区の取組報告が行われました。コーディネーターには、「みどりのわ・ささえ愛プラン」推進策定委員会の村井祐一委員長（田園調布学園大学人間福祉学部教授）をお迎えしました。

発表では、地区の概要・特徴・策定経過・取組内容について、それぞれの地区の推進策定委員から、具体的にわかりやすく説明されました。

各地区の事例発表の他に、会場1階ホワイエにおいて、11地区の地区別計画における推進状況を紹介します。来場者に各地区の取組を広く紹介しました。

＜下：緑区社会福祉大会チラシ＞

第33回 緑区社会福祉大会
平成27年2月20日（金）午後1時30分から4時

開場：午後0時30分 定員：334名
【第一部】式典（午後1時30分～2時10分）
社会福祉功労者・金品預託者の表彰
区内の社会福祉活動に貢献した個人・団体を表彰します。

【第二部】事例発表（午後2時20分～4時）
「身近な地域でつながり・ささえあいをつくるために」
第2期緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」の推進状況を広く地域の方々にお伝えすることを目的に、具体的な推進事例を発表していただきます。

〔事例発表地区〕
■三 保地区の取組み……三 保地区別計画推進策定委員会
■長津田地区の取組み……長津田地区別計画推進策定委員会
コーディネーター：みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会 委員長 村井 祐一 氏
（田園調布学園大学 人間福祉学部 教授）

※事前申込不要。参加費無料。手紙送付可。
※入場者が定員を超えた場合、1階ホワイエにてご観覧いただく場合がございますので、ご了承ください。

◎当日1階ホワイエにて、「みどりのわ・ささえ愛プラン」における各地区の取組紹介のパネルを展示しております。

【会場】緑区民文化センター（みどりアートパーク）
住所：緑区長津田2-1-3（裏面参照）
アクセス：JR横浜線、東急田園都市線、こどもの国線長津田駅北口から徒歩4分
※ 雨天と会場が異なりますのでご注意ください。

【問合せ先】
緑区社会福祉協議会 電話：931-2478 FAX：934-4355
緑区福祉保健センター福祉保健課事務局担当
電話：930-2304 FAX：930-2355



＜会場内の様子(第2部)＞

(3) 第2部での各地区の発表内容

① 三保地区の取組

三保地区では、「地域でのつながりを大切にしたい」、「落ち着いて活動できる活動拠点を増やしたい」、「イベント情報等を地域で共有したい」の3点を基本目標に、取組が進められてきました。

三保地区では、地域活動情報をもとに、平成25年度に「地域活動マップ/防災マップ」を作成しました。マップは、地区内の定例的な行事やイベント、また身近な視点での防災情報が掲載されています。マップは、地区内の全世帯へ配布され、多くの方々に喜ばれました。

そして、マップの配布をきっかけに、地域防災を進めていくことについて意見交換が行われ、地域防災拠点の規約の検討など、具体的な取組が進められています。

今後、三保地区では、これまでの取組を継続して着実に進めるとともに、多世代の方々が「つながり」を深め、より暮らしやすい街“三保”を目指していきます。



<三保地区の(左)岩澤氏、(中)湯澤氏、(右)西原氏>



<壇上にて紹介された三保地区の「地域活動マップ」「防災マップ」>



<長津田地区の(左)井上俊之助氏、(中)井上敏正氏、(右)横塚氏>

② 長津田地区の取組

長津田地区では、平成23年度より、災害時における支援策として、「黄色いバンダナ」を用いた訓練の実施や、「認知症サポーター養成講座」の開催など、認知症の人や家族が暮らしやすい地域づくりに取り組んできました。

そして、今年度より、これまでの取組を踏まえ、自治連合会や地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会が連携し、「長津田ささえあいネット」として、地域全体で支援が必要な人を日常的に見守る仕組みづくりが進められています。地域向けの認知症に関する講演会や、「認知症サポーター養成講座」の開催、また、新聞社との見守り活動協定の締結など積極的に取組を推進しています。

今後も、地域の見守り体制の構築を柱に、地域全体で日頃から無理なく、ゆるやかに見守り活動を進め、「向こう三軒両隣 ともにささえあう街 長津田」の実現に向け、さらに取組を進めていきます。



<壇上にて紹介された長津田地区「長津田ささえあいネット」の横断幕>



<村井委員長(コーディネーター)>

発表終了後、村井委員長から発表者に対して、取組の中で苦労したこと、手応え、良かった点や難しかった点、取組後の変化などについて、質問が出されました。発表・質疑応答を通じて、発表者の取組に対する想いや、各地区の取組の工夫などを、参加者と共有することができました。最後に、村井委員長より総評があり、会場からの大きな拍手で第2部が終了しました。